



名目鈔

特別  
73  
7097



名目鈔



夫於我朝稱名目多不當音訓又相交清  
 濁不傳輒不可字之無口傳而呼之必  
 失法自古至今家訓雖區介能學之  
 深思之非無一義矣將相合了恣量之  
 俗皆以為恣量者非真言家之所而凡在之  
 常可用之而已然儒釋西通真俗二門上  
 述義男女交語非恣量者豈通其理非  
 乎如勿婁三威謳奇雖未必并宮高皆有三

自所備音律俗言之含未盡之理又如斯

矣智者弁之愚者不弁之耳寧以不弁謂

不用乎太頑

愚之至也 或有連聲之相呼之有五音

之相通故雖不當韻聲意味尤深矣後世

不韋之撰早來音義以之若月之於唯

當切韻以為所必之理誠是之可謂不知通

之術計誰訂之也余自少恐之意不淺矣

遂註淺近之文篇漫誠後生之可畏極以

荒涼者乎但我未業及仍雲統當世所學

之故實猶失後世不傳之累祖之文知親

隔其訓暗然盡每先非乎抑依聲其以面目

太以抵牾能習得口常口誦不知誦

雖學其說莫較易言矣以聞他鄉之語矣

余閑暇之餘只述寸心之機臆不撰一軸

之文傳故不及九牛之一毛後生君子

必改正宜神廟正身

恒例諸公事篇

付神事佛事

小朝拜

後生コウシヤウ小字コウシヤウ小可積コウシヤウ

元三

後生コウシヤウ字可令清コウシヤウ上故注コウシヤウ

御弓奏

大元師法

不讀師字例コウシヤウ

男踏哥

家親コウシヤウ上原コウシヤウ相持コウシヤウ男見コウシヤウ

手番

元日宴

今世諸人コウシヤウ公僧コウシヤウ為師コウシヤウ實コウシヤウ僧云元日コウシヤウ故為誠コウシヤウ之証コウシヤウ

視告朔

視字不讀コウシヤウ例也コウシヤウ正四七三月コウシヤウ朔有之コウシヤウ

御齋會

女王祿

不讀女字例コウシヤウ

御薪

射禮

射遺

凶宴

音書奏

率川祭

列見

曲水宴

擬階奏

賭呂

政始

獻作

國并韓神祭

季御讀經

鎮花祭

灌佛

敬言固

三枝祭

真辛結

著駟政

醴酒

鎮火祭

施朱

解陣

荒辛結

賑給

悉火御飯

御射往

節折

凡巧奠

今世僧云キツカウ  
不足言

秋尊之明日

謂率川祭

織女祭

相撲石仰

相撲石合

仁王會

小考定

身場始

相掌奈

孟蘭盆供

相撲節

相撲出

定考

不堪田

朔旦冬至

當麻奈

當宗奈

御前試

新掌會

御佛名

鎮魂奈

童女御覽

荷前

道郷食奈

同臨時篇

讓位シヤウジ 又遜位ソンジ 有節會シヨウケイ

踐祚センソク 不讓位之時有世シヨク 号ナヅケ

御禊ミソギ 有行幸河原是カハラの 大嘗會オホノケ 禊也ミソギ

御書始ミソギ

御著袴ミソギ

行幸ミソギ

受禪シヤウゼン 無刃或有讓位者則シヨク 有以稱矣シヨク

即位シヨク

大嘗會オホノケ 以上謂三ヶ重ミヤカエ

御元服ミソギ 親王春宮天ミソギ 依代相替不一體也シヨク

入内シヨク

行啓シヨク 謂春宮皇后木御出シヨク

脱履シヨク

小深目シヨク 或有臨時シヨク

直物シヨク

評定シヨク 於御前有之シヨク

召仰シヨク

世更且諸夏有之シヨク 行幸之時シヨク 諸司大臣シヨク 初任勅宣上旨謂之シヨク 召シヨク 任大臣シヨク 諸司シヨク 叙位シヨク 深目シヨク 大臣シヨク 於里弟或陣シヨク 召シヨク 西シヨク 召シヨク

五后節會シヨク

任大臣節會シヨク

御幸シヨク 晴シヨク 藝シヨク

臨時叙位シヨク

仗議シヨク 於陣前之シヨク

僉義シヨク 於殿上有之シヨク

遺詔奏

固嗣

開闢

燒亡奏

廢朝

御産

恩詔

有天下吉凶之事時固三開

世時又有致言固誠石加賀茂宗恒例義

固用有月數

用之儀也

延尉列案手内  
裏付藏人奏

遺令奏

薨奏

流罪

廢務

改元

院号定

會坂石破  
鈴鹿

有言下先進勳文流致人

配於遠流中流近流  
依相遠近  
有非恒室

大畧其固一有法乎

并ムカウノサメ

條ヲ以テ定



私儀篇

拜加カ

着陣チヤウジン

大受食ダイキヤウシキ

上表シヤウヒヤウ

昇殿シヤウテン

大將大臣不祥退、伏シ  
獻スルヲ云也

参度サンタク

着座チヤウザ

嫁娶カウケ

勅授チヨウジュ

還昇エンシヤウ

ソウスケイシ  
當世ソウスケイト云也  
更不知故也、可昇事

着袴元服、詞見上  
略之

本音、シヨウ之而右目ハ  
シヨウ又湯也

諸公夏言詠篇

付私儀

祿法ロクホウ

祿所ロクショ

論近ロンキン

録事ロクジ

拜舞ハイム

拜叙ハイシヨ

大受食時有之

天孫臨同事也

位叙スルヲ云

祿物ロクモノ

論奏ロンソウ

論義ロンギ

拜指ハイササ

拜任ハイニン

拜官ハイカン

官、位スルヲ云

早練ハヤカリ

任官ニクニ

任限ニクニ

任所ニクニ

入唐ニクニ

入室ニクニ

入寺ニクニ

番奏ニクニ

任叙ニクニ

任中ニクニ

任月ニクニ

入棺ニクニ

入壇ニクニ

入堂ニクニ

最手ホツテ

相撲節有ハ

法令ホフリ

本座ホムサ

納言參預辭退職後有世宣下近末大臣前職之後  
有世宣性昔當職大臣乱位列前官上賜上条遂辭  
職之後不蒙世宣  
又无列六事

法曹ホフサウ

法意ホフイ

平伏ヘイフツ

右記云平卧同事也  
伏以共フヘ訓首改

表奏ヘイソウ

度者トシヤ

度縁

同心トウシン

當世人トウシジン之シ清シヨウメテ云

勅向チヨウ

勅旨チヨウジ

勅勅 チヨウカム

勅言 チヨウゴン

綸言 リンゴン

令旨 リマウシ

流例 リウレイ

留守 ルウス

息叙 シムシヨ

春宮四宮女院ホ  
仰也又親王ホ之臣命同先規  
可勅

行幸時有此事

勅旨 チヨウシ

條籍 チヨウセキ

綸旨 リンシ

令外 リマウガイ

理發 リハツ

又、  
ア、  
ア、  
ア、  
ア、

贈物 オウモノ

雜物ノ尺三寸可令

勅下 カシカハクダス

除月申文  
下外記

改名 カイメイ

改戸 カイコ

龜居 カメイ

夜居 ヨイ

各拜 タツバイ

探韻 タムイム

叙位除月時  
有此事

護持僧住二間加持

尊者者未家拜之時  
除逢共拜云也

同

勅上 カシカハウ

同又  
外記返進

改姓 カイセイ

作舞 サカシ

加冠 カカウ

西社行幸時有之凡不限  
西社神社行幸有此事

探題 タムイ

内裏之皇陽嘉吉時取作  
文題事也天台宗有此事  
名目其声大相遠

練歩ルンホ

連署レンジヨ

楚々ソソク

奏達ソウダツ

贈位ゾウイ

葛折カクセ

練レン

鮮衣センイ

見毛詩常在記六

御幸時

馬折柄

蒞會シカイ内弁ナイベン以下ノ作法

列行レツコウ

列立レツリツ

奏更ソウシ

贈宮ゾウミヤ

贈号ゾウカウ

追號ツイカウ

續杓ツキシヤク

直會チウカイ

勞ラウ

府勞フラウ榮勞エイラウ

能冠ネウカン

口宣クシム

内覽ナイラン

南曹ナムソウ

乱階ランカウ

翦次センジ

印鑑インカン

系衣ケイイ

公文クモン

可入雜物

就任シユジン回百世ヘイヒヤクサイ

國柄クニノカサ  
管國クニノササ  
西海シヤウカイ

驛家イキヤ

任請ニクニ

現任ゲンニ

還任エンニ

警衛ケイエイ

謙退ケンタイ

警者屈ケイシャクツ

檢納ケンナウ

凶吏ケウリ

迂退ケキタイ

敷奏フクソウ

復任フクニ

一折同事也

課試クワシ  
一ノ及第  
佛業也

還昇エンシヨウ  
常音ジョウオン  
又上マタウヘ

参来サンライ

兼任ケンニ

兼帶ケンタイ

警蹕ケイヒツ

警折ケイセツ

檢校ケンギョウ  
可入人形

度賀タクカ

見證ケンシヨウ  
常音ジョウオン  
又上マタウヘ

勸孟ケンメイ

敷政フクセイ  
或布

覆勘フクカン

細練 ユカネリ  
内弁練歩し一程

比 ヒ

垣下座 エムカノサ  
云地下座也

出居 テイイ

任例 アトノミ

丸右丸 マユウマユウ

箕策 キキヤク  
一業  
学文業事

籠様 ユメサマ

調度 テウダツ

雜訂 ザツテイ

議奏 ギソウ

給料 キウリョウ  
儒業

指讓 ユウジヤウ

召聲 メシコエ

未公文 ミキクワモン

尚齒會 シヤウシクワイ  
七段作文也

虎所 トコロ

室礼 シツレイ

及弟 ウチケイ  
同

指 ユウ  
イッテ

依所 ヨク  
西義有

未施行 ミキマウ

丸付 マユク

膝行 ヒツマウ

成業 シヤウゴウ

誦經 シヨキキウ

策勞 シマクノラウ

爵 シマシ

凡諸位ノ惣号ニ但又初叙五位ノ時シ  
謂叙爵日本ノ儀也

宴座 シマシノサ

宴穩座 シマシノシキ

非成業 ヒシマウコウ

評定 ヒシマウイマウ

前行 シマカウ

先出 シマシヨ

正音ハシヨウニ  
然而シヨハ名目ニ

前袒 シマシヨ

常音ハソナリ然而シヨハ  
名目ニ上ニシテ唱シ

聖断 シマシヤン

世務 シマシム

宣旨 シマシ

文ノ下ニシテ今キニ

宣下 シマシケ

臨時公ニ又篇ニ可全

昇殿 シマシ

一指

一行

一行

一行

一級

一院

院數ヶ所御時

一品

親王最結句叙之臣ノ位一任又一品之仁和寺官ノ外親王不可叙由先所祓定之然而竟仁親王世法度別叙叙

一員

於近世有將監將曹府生是之於外亦有尉志府生是之各其府之長官晴日具三判官具之兵可助之雖可加人律公而加之

二品

親王叙之臣ノ位ニ任ラノト云

三公

大政大臣  
左右大臣

三會

天台法華會與福寺、  
羅摩會法勝寺太深會

三品

王臣位  
同二品

三席

詩弄樂

三局史生

外記局左右弁官  
或内記外記弁官  
左右限之

三關

會坂鈴座  
同用時世三用也

四世無位

四道儒

紀傳 明經  
明傳 琴

四品

王臣位  
同二品

五音

官高ノ用徵羽

五品

王臣位  
五位也

五紙礼

上表文有世夏上

六府

左右近府左右中門府  
左右兵部府

六義

爪賊比身雅頌  
詩弄共有之

七聲

五音 總羽羽總高ノ  
二音シカテ

七變

尚齒會



八卦

八音 金石絲竹匏土革木  
千ムト可云是建志也

九

十

百澤王 鬼面圖

千

萬機政 ニキノミツラト

億

禁中列々名篇

殿舎門戶名目別在之略而  
不注其内少裁之

南殿 紫宸殿

御粧物所

定無其所節會日北庭假  
五御屏風及御侍子所著御衣也

賢聖障子

龜書

龍圖

已上兩面  
在御後戶

南階

西階

東階

軒廊

御殿 テシ  
清涼殿  
又中殿

夜御殿 ヨシ  
檜燈 カヒト

晝御座 ヒサ  
在庇

臺盤所 タイ

母屋 モ

孫庇 ヒシ  
或又庇  
已上於三々事者不限世殿  
雖何殿可有其稱但本殿無孫庇物

鳴板 ナ

二間 ニ  
有觀音夜后僧 天座主  
寺長吏  
東寺長者

朝于飯 アサ

鬼間 クニ

庇 ヒシ

石灰壇 イシ

上戸 カミ

棹間 ササ

沓脱 カハ  
云同門外

侍 ヒラ

殿上 テム

下戸 シモ

小板敷 コ  
云神仙門中

小庭 コ

宇津保柱 ウツ

殿舎中少々

中重 ナカ

賢所 カミ  
春與殿本号ノ也  
又内侍所

小女殿 コノメノト

鳥曹司 トリサウジ

南所 ミナミトコロ

馳道 チダウ  
在南庭

後凉殿 コノリマウラミ

假粧間 カサマキマ  
在外記廳

小屋 コノヤ  
同上

議所 ギジョ  
昔涼目之時在御所仰  
昔又有勸業自是進号  
場引

人躰篇 ヒトタマヒ  
男女

國母 クニノハハ

女院 メノイナ  
常春・ヨシ  
若目時引之

更衣 カウイ

嬪 ヒム

典侍 テンシ

命婦 メイブツ

母后 ハハノミ

女御 メノミカド

妃 ヒメ

尚侍 シヤウシ

掌侍 テウシ  
内侍同

女藏人 メノクラフト

采女 ウチメ 女公人之中花族者也  
依勤陪膳

刀自 トシ

水取 モム

内司 ナシ

尚藥 シムウヤク 元三御藥  
命婦乃其人

舞枝 マヅキ

東豎子 アヅマウラウ 三子之孫葉上  
代々同名字也

一人 イチヒト

殿 ト

大内 ダイナウ

一上 イチノカミ

内弁 ナイヘン

化人 カヒト

月祢 ツキネ 或侍從

女官 メウクワン 女公人之惣者也

得選 トクセン

主殿司 ヌシ 主殿寮女官上

女孺 メウ 掃部寮女官上

菜童子 ナウジ 同特掌御菜者之用末  
嫁者年終衣也亦有勤

無非 ムヒ

半物 ハシモノ

一人 イチヒト

殿下 トノカ

禪閣 ゼンカク

上卿 ウヘノケイ

外弁 ケヘン

花族 ハナウラ

大天君達 オホテンノミチ

上達部 カム タム

弁官 ハム クラシ

大舍人 オホ トチリ

輔代 フ タイ

史生 シ シウ

陣官 チン クラム 或官人

御倉 ミ クラ

職事 シキ

傳奏 デン ソウ

内豎 ナイ シュウ

政官 シヤウ カン

官掌 カン シヤウ

小舍人 コ トチリ

廳頭 テイ トウ

トノ字ツトミマシ

召使 メシ ツカシ

後取 キイ ケム 元三御業陣夜威人定具  
元日四位二日五位三日六位

啓陣 ケイ ケム

侍鑿 シモイ シノミ

番長 バン チヤウ

啓將 ケイ シヤウ

元三御業  
参勤

院中篇

法皇ホウワウ

本院ホム ニト可申

新院ニト可申 是ニト可申 連声

執事シツジ 別當ベツドウ 或大別當或大別當 大略大尺所神大略大尺所神

判官ハツカン 代タイ 五位

廳官チマウクワン 六位

シマウシウク

上皇

中院チウウ

院司インシ 公卿コウケイ 已下惣号也已下惣号也

年預ネンヨ 公卿及殿上人依器用依之公卿及殿上人依器用依之 預字ヨシ ニト可申 連声

主典シュテン 代タイ 廳神チマウカミ

上北面シマウホウメン 諸大夫シロノオウヂ

下北面ゲホウメン 五六位皆譜代侍

執權シツケン 公卿使司神公卿使司神 近侍事也近侍事也

御廐ミケ 別當ベツドウ 西園寺代神西園寺代神 書流又神書流又神

舍人トナリ

御隨身ミズイ 上鵬カミトビ 九右將曲目左右官人九右將曲目左右官人 左右長左右長 左右近衛各三人其兵仗也左右近衛各三人其兵仗也

所司シヨシ 下北面中出用譜代下北面中出用譜代 單被仰単被仰

案主アンヌ

居飼イカイ

文殿フトノ 御世及時被置之御世及時被置之 移記録所候移記録所候

後院コノ

開園カイエン

御幸

上皇不能及女御  
出同三

院宣

被下  
万機諮詢時每事

布衣

始  
太上皇尊號之後始  
念者御馬槽云也

臨幸

御幸同三

北面始

上皇之後始而被  
彼輩云云也

雜物篇

女書及衣服車馬具類各別附三

御侍子

幼少時至御侍子前

兼足

二色毳代

御帳帷

儿帳

壁代

置物机

置或甚板  
釵金

大宗御屏風

通障子

小臺盤

两面把  
切一長一

草墊

陪膳中女座

几子

獨床子 ヒトリノマウシ 三位冬袴

蜜繪 ミツエ 下 敷公御堂盤

胡瓶 コビン

版位 ハニイ 尋常 宣命

盧蔽 ロヒ

文板 モン 有黑白 依文相替

覽 ラン 甚 シツ

厚圓座 アツクニ

纒絹 ウケニ

綠端 キナンド

高麗 カウライ 本音リ 名目ライ 大文女文トモ

青瓷 アヲシ 多盛天子 御食器也

斝子 カサ

銚子 チウシ 元三御茶之時 用之

篋子 スノコ 敷床子 シキノマウシ 或号長床子 三位冬木

胡床 コマウ

空蓋 コウサイ

標 ヒラ

膝突 ヒザツキ 或較 陣較 之外 有所司較

文吏 モンシ

倚子 ヨリ 初任公卿着座之時換 吉日休之合立廳也

管圓座

两面 リマウメン

苗端 キナンド

紫端 ムラサキヘリ 赤端世俗云世夏須

蓋 フタ

瓶子 ビン

衛重 ツイカサ子 上下用之



下器 カツキ 旬之時用之

日給竹筒 ニツキ フノフタ トノ井モノフシロ 宿居物袋

時簡 トキノフタ

置物厨子 シキ モツ

玄上 クニニシマウ 比巴

鬼 ウニ 單

荒海障子 アラウシマウ

### 衣服篇

冠 アツ 常時束帶直衣 及小忌木用之

厚額 アツ ヒタシ

綉 ライカケ 或老懸

巾子 ユ 放巾子 元服之時 用之

玉冠 イソツクラ 礼服之時公卿用之 付組緒 タノカワリ

武礼冠

雀器 クネ ツキ

日記唐櫃 ニツキ カラウト

彈碁 ウニ

笛篁 フエノコ

鈴鹿 スズカ 和琴

昆明池障子 クニノイ

馬形障子 ウニカメ

薄額 スス

纒 スス 武官依事用之 去一 去市儀

冕旒 ミ 天子十二 諸侯已下 減其數

帛衣

子神夏時用之

小袖

常内衣事  
大袖小袖類之物

裳

綬

小忌

又号青摺

目蔭絲

赤紐

心葉

付冠纏目蔭系

位袍

又号表衣  
深緋淺緋綠黃衣

将衣

或布衣

直衣

将襖

隨身者之舍令半銅  
取用又此等之然而又將衣

淨衣

神事時多用之

小直衣

或將衣直衣古者  
祓廳後院中未着

下籠衣

裾

單

又掛

半臂

東帶之時略禰  
袂腋時付禰公卿小忌時此

表袴

礼服東帶小忌  
兼用之

指貫

或奴袴

黃檀漆

礼服

大袖則是也

玉佩

肩兜  
此上礼  
狀具也

水干

上下用之

半虎

相

織物東帶之時不用之  
着付也以後飯付簪

衣

織物之系縫簪東帶之時  
紅巾衣之外不用之

帷

夏季号汗取赤切年月稱日  
時事也冬季白是皆互衣將衣時  
冬夏共白

下袴

下結時用之

大口

生手指幼年月日長年純指  
貫得近目迄是着精強大口

鞆ヒメウツ 錦不眠之時用之練貫上之鞆及  
顯職之人用之平絹下之鞆及老者用之

牙笏ケノ 不眠之時用之

有文巡方帶ウ 常會行幸及  
慶賀之時著之

有文丸鞆帶ウ 無止事之時  
用之

以上玉帶三位已上用之

爰清原業忠法師流自五位外記史著無文玉帶  
其由緒故尋聞之處無沙汰事  
九鞆之外無巡方非冬木大弁已下四位之人上下用之  
依無方常會行幸月雖以位用犀角也方三例也

女帶十具渡朝仍臨時余日雜人十人之外不用之  
當時似物多出来餘于本教無謂事也

犀角帶ヒイ 巡方丸鞆共有之馬也關如之時  
四位モ着用之不限巡方也

烏犀帶ウサイ 六位用之

饒太刀カサ 常會及御禊行幸  
供奉公御臨時兼使奉  
木地螺鈿キ 尋常三行幸及  
無止文時用之

蔣繪螺鈿太刀ニキ 遠行幸  
用之  
通螺鈿太刀ラ 蔣繪与螺鈿通  
最上之物也

時繪細劍ニキ 常一州用之物  
無文丸鞆帶必用之  
螺鈿野劍ラ 常會行幸月將  
用之公卿用之

蔣繪野劍ニキ 或号平鞆太刀或号毛板形太刀或号平鞆太刀  
上下二襲時令持之又殿上人束帶時依平鞆着用之或

慶賀笏ケイ 慶賀之時用之  
佳昔各別用意

無文巡方帶ウ 天子之外  
不著之

无文丸鞆帶ウ 常用之

四位冬木  
又勿論

上皇御幸時  
被入御車

或用平緒或用草緒其間之儀能可思慮也又  
警言固非常行幸未之時街府公卿已下四五位  
直衣衣冠束帶以草緒用之  
非正官者不可用之

沃懸地太刀

大埋用之  
時繪太刀也

黑漆太刀

六位用之  
有毛板形

劍裝束有紫草又有藍草

或者云黑草其草  
未聞事也甲冑時

云黑草其草種姓同品也雖勿論太刀之時藍草不能忘右  
又錯太刀裝束是赤滑是也凡侍紫草裝束用紫綵  
平緒藍草時用紺地平緒故實之但不具之時非少也浪矣  
又平鞘太刀裝束及緒皆紫草有雜物柳金作太刀大尾已  
上着之銀作  
紙言已下用之

紫綵平緒

老年用之但  
老年依事用之

紺地平緒

青綵平緒

白地平緒

小忌之外  
不用之

棟綵平緒

標綵平緒

金魚袋

三位已上用之四位多談又勿論不謂文武官等會  
及御禊行幸日付之臨時余使又付之

銀魚袋

四位已下殿上地下付之為會付之但次將上儀之  
時不付之假令叙列未之儀是也

草鞋

天子着之臣下不用之  
但法中用之

絲鞋

幼主之時着之  
又御人等自龍衣時着之

烏皮沓 カハシ 礼服之時着之

草 クサ 有款縹 赤地青地 錦

半靴 ハシラ 無縫着下袴ノ宗馬時 公卿已下侍已上着之

唐草 カラクサ 西園寺西大寺富家 其外四條山科着之

雲互涌 クモタナ 持家大氏之後着之 上皇之令着縹能可尋

卧膝 ワシロウ 冬直衣及同下重

窠霰 クワニアラ 浮文表袴文是也

淺履 アサギ

深履 フカシ 政之時用之

踏懸 フミケ 年人舞人着龍衣之時用之

輪典 ワリテン 三條花山着之 大炊着之 日野勸修寺已下地下皆自之

異文 イブキ 訛家大氏已後着之家之 訛不同西園長子唐木三條大 龜甲之我美之青流

次文 ツギモノ 夏直衣及同半臂文也 織物指貫用之

小葵 コアライ 天子冬下龍衣同直衣未文也 大臣下之半臂同打衣各 小重直衣未用之

莒形 クニカタ 非是文染裝束之時多 下重用之

濃色 ノコ 十五未備用ノカ子染也 織物、経緯共、濃紫

半色 ハナタ 経緯共、薄紫

薄青 ウスアヲ 経青緯白

薄蒼染 ウスアヲ 経赤緯紫

七金襖 ヒコニ

皆練 カイナリ 同也之性昔、彼も也 織者有迷夏也

單菱 ヒトヒ 單衣必用之

薄色 ウス 経紫緯白

花田 ハナタ 浅木色

香 カウ 乾老君有浅澤

赤色 アカ 経紫緯赤

火色 ヒ 下重色也

藪方 スワウ 公卿已上夏下重色

二藍

夏下夏下重也也

以上不盡其也世以混合所用相凌

喪服篇 付雜々

錫紵

天子喪服也

素服

三總着之物也

輕服

赤漆沓 同上

高冠

天子喪下父母時三天着  
輕服止義服也

拊子也

如房袴及表袴裏  
款單又同之但分別  
可動也

黑服

或黑怙衣束  
真衣持衣皆存三  
絹布人三意巧名

重服

每夫 妻 君

繩纓冠

重喪三時着三  
亮闇時天子以外

無文扇

表裏衣田  
不畫文

鉉也

衣田保之高闇時直衣也  
也指貫勿論表裏衣袍  
裏亦同之大惟毛同也

除服 チヨフシ

入棺 ミツク

前火 サキヒ

喪場殿 モウバト

步障 ホシマシ

黃幡 ワウハン

行障 カウシマシ

天子行之時用之

椽 ツル

炬火 ツルヒ

枕火 シラヒ

荒垣 アラカキ

高岡時殿上人曰位已下着之  
深也之後本官之役時不着之  
必着位袍

御前僧 ミマエソウ

諸寺僧勲五旬  
法又云也

車具篇

文書篇

西篇有右不載子細  
他本可令人念之

右一冊不慮披見、間字之東山左府實、熊公

自筆也、伴本草本款或有篇目不載、其少細或翻

轉之所鈎引之、大畧若如本寫之抄、之如今世重記

損、處、漏、之、止、所、人、可、練、習、也、

千時明應第九季秋江三遺一カ

羽林藤

社

大正  
十一年  
四月



